

令和7年6月4日

地域のみなさまへ

福島県立医科大学附属病院

病院長

### 染色体性 AmpC 過剰産生大腸菌の発生報告

本学附属病院において、染色体性 ampC 遺伝子のプロモータ領域に変異のある AmpC 過剰産生大腸菌が発生していることを確認したため報告いたします。

令和6年4月、AmpC 過剰産生大腸菌の検出数が多いことが判明したため、同年6月から11月までの6ヶ月間、調査目的に同菌株を持続的に収集したところ、大腸菌の17.6%にあたる41株が AmpC 過剰産生菌と判定されました。うち28株について PCR-based ORF Typing (POT 法)を行い、同一クローンであることが判明したため、令和7年1月にこのうち6株のゲノム解析を専門機関において実施しました。その結果、すべて同一の染色体性 ampC 遺伝子のプロモータ領域に変異があったことから、染色体性 AmpC 過剰産生大腸菌であると判定しました。現在、AmpC 過剰産生大腸菌の定着箇所について、当院 ICT が調査を開始しております。

また、同菌検出例においては、染色体性ではあるものの接触感染対策を追加して対応しております。今後は、調査結果が判明し次第、報告する予定としています。

以上

(お問い合わせ先)

福島県立医科大学附属病院感染制御部

電話 024-547-1691

FAX 024-547-1692